

# はんチューナーズ便り

Vol.25



発行人  
看護部長室

## 地域のお祭りの救護で活躍



今年も地域のお祭りの救護に貢献しています。今年は、3A病棟・3C病棟の若い看護師さんが協力してくれました。

## ふれあい看護体験に3名の高校生が来てくれました

ふれあい看護体験に今年は、3名の高校生が来てくれました。2C病棟・3B病棟で体験を行い、看護学校の見学、食堂で昼食体験、リハビリ体験、普段あまり入ることのない「手術室」の見学を行いました。全員、看護師になる気持ちが高まったようです。



法人内の職員が参加して「災害が起きたときにどうしなければならないか、地域での役割」を考えました。外部から2名の先生、院内から3名のスタッフの講演がありました。生駒市役所からは「生駒市地域BCP策定厚生労働省モデル事業」の話を、小木クリニック院長 瀬島照弘先生にはご自身が経験された「過疎地域にある医療機関が経験した能登半島地震」を話していただきました。記事のQRコードを添付しますので是非ご覧ください。院内からは、井上救命救急士、外来看護師横井さん、手術部師長でDMAT隊員の小木さんに今後院内で取り組むことを話していただきました。まずは、マニュアル作成です。



2025年厚生労働省スライド



朝日新聞

### 看護部長の独り言

病院の病床数が199床になりました。これで、地域包括ケア病棟1の算定も可能になります。医療機関の機能分化：国の制度見直しにより、医療機関の機能分化が図られており、200床未満の病院は、より地域に根差した医療機関としての役割を担うことが期待されています。

急性期病床が1床減って経営は大丈夫なのかと思えます。でも、目の前の患者さまにとっては急性期も慢性期も関係ない。私たち医療者は目の前の方が幸せに生活できるための手伝いをすべきであり、地域に必要とされる病院であり続けるためには、住民が必要としている医療を届け続ける必要があります。